



オリジナルのテストを生かしつつ美しくレストアされたインテリア。4速ミッションに伴ってシフターにはB&Mを装着し、その前方には追加メーターを配置。ビンテージアワーでエアコンを、レトロサウンドで音響も改善。

オリジナルはキャブレター仕様のエンジンが搭載されていたが、ハードな使用に対応させるためインジェクション仕様のTBIエンジンへとスワップ。同時にトランスミッションもオーバードライブ付き4速オートマチック（700R4）へと換装して、ストリートからハイウェイまで快適なクルーズが堪能できるだけでなく、耐久性や燃費にも大きく貢献。



元々はレッドだったボディカラーを、アメリカの空を連想させる鮮やかなブルーへとリペイント。グリルやバンパーなどのクロムとのコントラストがひと際映えて、スタイリッシュな仕上がり。



ボトムスにはアメリカンスタンダードと言わねばアメリカンレーシング・トルクスラスト II をセレクト。サイズはフロント18、リア20インチ。タイヤサイズはフロント225/40ZR18、リア285/25ZR20。そして、制動性能を高めるため、ブレーキは4輪ディスク化。



1967 CHEVROLET EL CAMINO

■ Thanks : AUTOGALLERY TOKYO Ta. 042-799-5222 <http://www.autogallery.co.jp>
 ■ Photo : 相場恒弘 Text : 編集部

乗用車ベースのピックアップトラックは数少ないが、その中でも圧倒的な人気を誇るのが「シボレー・エルカミーノ」。クーペのごとき流麗なフォルムだが、歴としたトラックだけに、ワークホースとして耐えうるよう各部を見直して実用性をアップ。



アメリカの日常を日本でも可能にするべく、スタイルだけでなく実用性も考慮

アメリカの街中を暴走せよ、ピックアップトラックやバンがワークホースとして使われている光景を目にする。アメリカ人からすればありふれた日常の一部ではないだろうが、我々日本人からすればそれがカッコ良く見えてしまう。アメ車好きならなおさらかもしれない。そんな想いを抱く、オートギャラリー「東京と長年付き合いのあるユーザーが「ワークホースとして使いたい」というリクエストに応じてセレクトしたのが、この1967年型エルカミーノ。とはいえず、ヘムル車は見ての通り旧車である。これを普通に乗りこなすには、ワークホースとして道具を積んで毎日仕事で使うにせよ、それなりの対処が必要であることは明白。エンジンやミッションといった機関系の見直しはもちろんのこと、サスペンションやブレーキなども改善しなければ、用途に耐えることはできない。そこでエンジンはオリジナルからTBIへと換装してインジェクション化。もちろんこれに合わせてトランスミッションも700R4へと組み替えられている。そして制動キープを図るため、ブレーキは4輪ディスク化。これらの処置によって、ストリートから高速まで軽に操れるようアップグレード。もちろん見直されたのは機関系だけでなく、インテリアもオリジナルのテストを残しつつフルレストアされ、何とも言えない優美な空間が広がっている。

ユーザーのリクエストに最大限に応えた姿がここにある。

流麗なスタイルを持つトラックをワークホースとして使える仕様に